

## 地域づくり表彰

団体名（埼玉県北本市）

# 合同会社 暮らしの編集室（埼玉県北本市）

合同会社 暮らしの編集室

代表社員

岡野 高志

### 1. 北本市の概要

JR 高崎線で東京から 50 分。埼玉県の中央辺りに北本市はあります。

一見すると典型的なベッドタウンですが、実は旧石器時代から人が住み続けている歴史のあるまち。そんな北本市が近年、地域づくりの分野で少しずつ脚光をあびています。

マチナカに次々とシェアキッチンがオープンし、市役所ではマーケットが開催され、魅力的なお店が少しずつ増えています。市内にある築 50 年、2000 戸の大型団地「北本団地」では、シャッター商店街にユニークなお店がオープンし、若い入居者が増えています。



北本団地商店街

### 2. 活動開始の背景・経緯

#### 【活動概要】

暮らしの編集室は埼玉県北本市を拠点に、新しいまちの可能性を生み出す「まちづくりのチーム」です。クリエイティブな発想でまちを見つめ直し、北本市内外の魅力的なモノコトヒトを「つなげる」ことを目的としています。

主に、空き店舗を活用したエリアリノベーション事業を行っており、2019 年には北本市の中心市街地地域にシェアキッチン「ケルン」をオープン。その後、2021 年 5 月に 2 店舗目となるシェアキッチン「北本団地中庭」を北本団地商店街にオープンし、2022 年 5 月には同商店街にシェアアトリエ&ギャラリー「まちの工作室 てと」をオープンしました。

他にも、マーケットを通して地元愛を醸成する「マーケットの学校」など、北本市の移住定住プロモーション事業に取り組んでいます。



北本団地中庭

### 3. 5 者連携によるプロジェクトチームの結成と実践

北本団地では、「北本市・UR 都市機構・良品計画・MUJIHOUSE・暮らしの編集室」の 5 者で連携し、「北本団地活性化 project」として活動を行いました。

北本団地には、団地中心部に 15 か所ほどの店舗付き住居の商店街がありますが、営業を行っているのは数店舗であり、うち 10 か所ほどはシャッターが閉まっている状況です。

団地商店街のシャッター街化、団地住人の高齢化やコミュニティの希薄化など、様々な課題を解決するために、暮らしの編集室が地元プレーヤーとなり、まちの新しい可能性を模索しました。



プロジェクトチーム結成！

### 4. 中の人。外の人。どちらも居場所となる地域づくり

北本団地の課題である商店街のシャッター街化や住民の高齢化、コミ

ュニティの希薄化は、団地自身が団地住民だけの場所として内向きに機能してきた事に起因すると考えています。

暮らしの編集室では、自治会や居住者の皆さんとのコミュニケーションを取りながら、団地に住んでいなくても、団地に関わる仕組み作りを実践しています。北本団地へ様々な形でかかわる関係人口を増やすことで、将来的に団地住民を増やすことや団地への愛着度向上を図り、長期的な視点で課題解決を図る、地域づくりのサイクル構築を目指しています。

具体的には「北本団地中庭」がオープンする一年以上前から、団地自治会や団地商店街の皆さんと、団地の良さや魅力を話し合うワークショップ「北本団地未来会議」を数回開催し、メンバーで話し合った団地の魅力や要素から、シェアスペースの方向性やコンテンツを検討してきました。もちろん、このようなワークショップにも団地外の関係者に入ってもらうことで、様々なプレーヤーが団地について考えていく試みを、プロジェクト当初から実践してきました。

「北本団地中庭」のジャズ喫茶では、団地在住の方が多く来訪し、週末のジャズライブでは団地外の方が多く訪れます。また、中庭で開催されている企画イベントも、団地に住んでいない人や団体が開催しているものが多く、北本団地への日常的な関わりが生まれています。

新型コロナウイルスの影響で開催できなかった、夏祭りの代替となる子供向けイベントを、団地自治会と様々なメンバーが協働して開催するなど、コミュニティサイクルの小さな芽が生まれています。

加えて、物件の改装には北本市の

「ふるさと納税型クラウドファンディング (GCF)」を活用し、200 万円以上の資金調達を達成しました。GCF以降に寄附者の方を改装したスペースに招き、お披露目会の開催や、定期的な情報発信を行うなど、多様な団地への関わりづくりに挑戦しています。

団地を住民だけではなく外にも開かれた場所として再生することで、コミュニティの輪が広がっています。



イベント開催の様子

### ○今後の展望と目標

「北本団地中庭」は 2021 年 5 月のオープンから一年余りですが、月間 20 日以上での営業を通し、様々な人が集うコミュニティの拠点施設として成長しています。この場所を起点として、北本団地商店街に 2 店舗目となるシェアギャラリー&アトリエ「まちの工作室 へと」をオープン(2022 年 5 月)しました。

現在は、新たに陶芸とサボテンの店を開きたい方や、写真館を開きたいカメラマンと団地の空き店舗活用について調整を進めており、着実にエリアへの波及効果が生まれています。空き店舗等をシェアすることで、低い負担での開業を可能にし、起業・創業を希望する方の支援にもつながっています。

また、定期的なマーケットの開催や、公共広場を活用した防災イベントの企画なども調整を進めています。団地自治会や商店街とは、年に一度の大きなお祭りの企画会議を一緒に行うなど、ゆるやかにコミュニティサイクルが回り始めていると感じています。

この先 10 年・20 年という時間をかけて「この団地が大好きだ」と、私たちも含め胸を張って言える人を増やして行くことが、団地プロジェクトの目標です。



ジャズライブの様子



まちの工作室 へと



小さなマーケットから広がるコミュニティ